

氏 名 三 富 純 子

1. 研究テーマ

1) 歯科衛生士教育におけるメディカルアロマセラピーに関する研究

A study of the medical aromatherapy in dental hygienist education

2) 歯間隣接面の清掃に関する研究

Study of interproximal tooth surface cleaning

3) 口腔清掃用具の使用順に関する研究

Study on the order of use of oral cleaning tools

4) 歯科衛生士教育における学習効率向上のための視知覚パターンの解析

Analyses of visual perception pattern for learning efficiency up at dental hygiene education

5) 舌清掃器具の違いによる舌清掃圧の研究

A study of tongue cleaning pressure by the difference of the tongue cleaning equipment

6) 歯冠近遠心幅径は叢生の程度と関係する

Proximal crown width is related to the degree of crowdin

2. 今年度の研究計画

1) 歯科衛生士教育におけるメディカルアロマセラピーに関する研究

学生自身のストレスコーピングの一助となることを目的として、メディカルアロマセラピー実習において精油の経鼻吸収(芳香浴、ルームコロンの作製)および経皮吸収(ハンドマッサージ、マッサージオイルの作製)の実習を行っている。学生が好きな香りの精油をブレンドした芳香浴を1か月間実施することにより、唾液中ストレス物質のクロモグラニンAが有意に減少することから、香りの嗜好に合った精油のブレンドおよびストレス緩和におけるアロマセラピーの重要性について教育を行っている。歯科衛生士は五感(診る・聴く・触れる・嗅ぐなど)を使って患者をみる職業であることから、心身ともに安定した状態で仕事に臨むことが求められる。今後も歯科衛生士教育におけるア

ロマセラピーの教育・研究を継続する。

2) 歯間隣接面の清掃に関する研究

歯周病のリスクの高い歯間隣接面のプラークを効果的に除去するための歯ブラシ刷毛形態を明らかにすることを目的に、歯間ブラシと刷毛形態の異なる2種類の歯ブラシを用いてプラーク除去効果を比較検討した。その結果は、第63回春季日本歯周病学会学術大会（2020年5月）にて発表予定である。今後は、刷毛形態の違いに加え、ブラシ圧の違いによるプラーク除去への影響について検討し、効果的に歯間隣接面のプラーク除去ができる用具や清掃方法について研究を継続する。

3) 口腔清掃用具の使用順に関する研究

歯ブラシと歯間ブラシの使用順序がどのように清掃効果に影響を及ぼすかを明らかにし、効果的な口腔清掃指導法を確立することを目的として研究を行った。次年度の日本歯周病学会発表する予定である（令和2年5月）。次年度は患者指導用の効果的な歯間ブラシ使用方法に関するリーフレットを作成する予定である。

4) 歯科衛生士教育における学習効率向上のための視知覚パターンの解析

平成29～31年度科研費にて行う『歯科衛生士教育における学習効率向上のための視知覚パターンの解析』の研究である。今年度は、2年次に実技を伴う視線教育を行った学生に対し、同様の実技試験を行った課題正解率について解析を行い、その成果を第10回日本歯科衛生教育学会（12月、福岡）でポスター発表を行った（効果的なデモンストレーションの検討 第3報：実技試験結果からの考察）。次年度は同学会に論文を投稿する予定である。

5) 舌清掃器具の違いによる舌清掃圧の研究

舌清掃は口腔清掃の一つとして定着しつつあり、患者への清掃方法指導は歯科衛生士の重要な業務の1つである。しかしながら、舌清掃の方法、特に清掃圧に関して検討した研究報告は少ない。そこで本研究では、実際にどの程度の圧をかけて舌清掃しているのか、異なるタイプの舌清掃器具を比較し基礎的なデータ収集を行った。今後は基礎的データに基づき *in vitro* で、圧力の違いによる傷つき具合の調査を行っていく。

6) 歯冠近遠心幅径は叢生の程度と関係する

近年、日本人の顎は小さくなっているといわれている。歯の数についても、

先天的欠如の割合が増加しているとの報告がある。一方、上顎中切歯や上下顎の臼歯は歯冠近遠心幅径が増加傾向にあるとの報告もある。以前から歯と顎骨の大きさのバランスが崩れると不正咬合が発現することは広く知られており、叢生の原因については多くの研究がなされている。しかし、歯冠近遠心幅径の大小が叢生の程度に与える影響について、同年代の集団を用いて検討した研究はほとんど見当たらない。そこで、歯冠近遠心幅径と叢生の程度がどのように関係するかを検討し、混合歯列期において永久歯の大きさから将来的な不正咬合の程度を予測できれば、矯正歯科臨床に寄与することができると考えた。これが本研究の目的である。なお、本研究の結果は次年度歯科衛生学会において発表や学術論文を通じて社会へフィードバック予定である。

3. 対外的活動（学外講義・学会活動など）

1) 他大学での講義

2) 学会活動（査読、理事、評議員など）

3) 公的な委員会等

一般社団法人新潟県歯科衛生士会 監事
三条市看護系高等教育機関の開設に係る懇談会

4. 研究業績

A. 著書

B. 原著

C. 総説・解説

D. 報告・紀要

E. 翻訳

F. 学術雑誌掲載講演抄録

- 1) 筒井紀子, 煤賀美緒, 三富純子, 宮崎晶子, 佐藤治美, 土田智子, 元井志保, 菊地ひとみ: 要介護高齢者を想定した「ベッド上での口腔ケア」実習の新たな試み, 日本歯科衛生教育学会雑誌 第10回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会抄録号, 10(2):116, 2019年12月8日.
- 2) 宮崎明子, 佐藤治美, 三富純子, 土田智子, 筒井紀子, 菊地ひとみ, 煤賀美緒, 佐藤律子: 効果的なデモンストレーションの検討 第3報 実技試験結果からの考察, 日本歯科衛生教育学第10回学術大会, 福岡, 2019年12月7日.

G. 特別講演・シンポジウム講演

H. その他

外部研究費

企業等委託研究費

- 1) 研究費の名称: デンタルプロ株式会社
種類: 継続
研究期間: 2019年4月1日~2020年3月31日
研究課題名: 唾液分泌促進・口臭抑制に関する研究(新素材、舌ブラシ、歯ブラシ等)
研究代表者: 筒井紀子
研究分担者: 大森みさき、煤賀美緒、三富純子、宮崎晶子、佐藤治美、土田智子、菊地ひとみ、両角祐子、三上正人
一課題あたりの総取得額: 30万
- 2) 研究費の名称: デンタルプロ株式会社
種類: 継続
研究期間: 2019年4月1日~2020年3月31日
研究課題名: 歯の着色汚れに関する研究・新素材、新規開発フィラメン

ト等に関する研究

研究代表者：佐藤治美

研究分担者：菊地ひとみ、三富純子、宮崎晶子、土田智子、筒井紀子、
元井志保、煤賀美緒

一課題あたりの総取得額：30万

3) 研究費の名称：デンタルプロ株式会社

種類：継続

研究期間：2019年4月1日～2020年3月31日

研究課題名：歯間ブラシの使用マニュアルの探索

研究代表者：宮崎晶子

研究分担者：佐藤治美、三富純子、元井志保、土田智子、筒井紀子、
菊地ひとみ、煤賀美緒、三富純子、両角祐子

一課題あたりの総取得額：30万